

令和元年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブ・ラーニング、ICTを利用した授業を実践する。〔5教科による、年2回の研究授業を行い、全職員で授業検討会を行う。(前期はICTを利用)〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前期は7月19日に数学・理科・総合、後期は12月10日に国語・英語地歴・公民、理科の研究授業を行った。その後、授業別、全体での検討会を行い、有意義な研修となった。 毎時間、パワーポイントを作成し、授業で利用している。 授業の中でのICT活用はまだ不十分で、今後取り組んでいきたい。 アクティブ・ラーニングを意識して授業に取り組みことが多くなった。 3Fの環境整備は進んでいるようだが、他の階への整備もお願いしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の充実、拡充への取り組みに期待する。また、ICTの環境整備については、加速が必要である。 大学入試の制度が変化する中で、学力向上の工夫をしてくれているように思う。 特別進学コースがスタートするので、様々な取り組みが必要になると思う。 ICT活用の授業への取り組みが徐々に進み、今後に期待している。
	学力分析と学習方法の考察	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセの到達度テスト(基礎力診断テスト及びスタディサポート)の結果から、学力の抜け漏れを確認しそれを補う指導をする。 各学年で、生徒に学習させる方策を検討し、実践する。〔学力の質・量の向上〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセの学力到達度試験の指標[G T Z]は、学力、学習努力を見る指標として定着してきている。授業でも解説をするなどの取り組みを行い、結果も向上が見られた。また、学年上位者掲示を行い意識を高揚した。クラスの学習に対する取り組みも良くなった。 各学年で、朝学習、朝テスト(英・国・数)を行い、不合格者には再テスト又は課題を課すなどの取り組みを行った。 家庭学習の確保、充実は個人差があり、苦勞している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 結果に基づいた、事後の指導の充実に期待する。 家庭学習を充実させる工夫を、お願いしたい。 学習指導は、学校全体の統一した方向性が必要だと感じている。
②進路指導の充実	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> 3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示。 希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(本校に20社程度来校する予定) 職場見学や卒業生等による講話を通して、会社への理解を深め社会人になることへの意識高揚を図る。 徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者73名全員内定。 今年度は1回目の試験での不合格者2名。(例年10名程度)求人が3倍以上あったことや、企業をうまく分散させて受験させたこと、学校をあげての指導体制で取り組んだことが良い結果につながった。 本格的な受験指導は、3年次の夏季休業中の月曜～金曜日、午前に毎日面接指導、SPI等の筆記対策を行った。 企業を本校に招いての説明会を2年次の6月、3年次の5月に実施して企業理解に努めた。 外部講師を招いての面接指導も夏季休業中に行い、的確なアドバイスを頂いた。 2年次からの新聞記事まとめノートの提出も効果があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全員内定が決まったことは評価できる。今後もさらなる指導体制の充実をお願いしたい。 繰り返しの面接指導を行い、生徒の自信につながったと思う。早い段階からの目標設定が大切だと感じている。 企業を招いての説明会や職場見学等、就職希望の生徒への丁寧な指導が行われていると思う。 毎年、好結果を出し、生徒の頑張り、先生方の手厚い指導に感謝している。 就職率の高さは、本校の強みであり特色であると思う。
	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学&中堅以上私大推薦AO入試合格4名、一般入試合格4名(センター試験70%を目標として実力養成) 高大接続改革(CBT・論述問題ポートフォリオ)への対応 高校基礎学力テスト(到達度テスト)への対策(基礎力診断テスト・スタディサポートの活用) 進路ガイダンスの改善・充実。 外部模試の準備・受験・復習の充実(ラーニングシステムの利用) スコラで計画的な学習習慣を、スタディサプリと受験対策講座で学力をつける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試結果は、国公立大学5名、中堅私大5名と合格数目標は達成。多くは、AO・推薦の合格である。ただ、年内に合格すれば、センター試験への意欲は下がり、自然と得点率は下がる。また、看護専門学校に10名が合格し、最後まで努力した生徒も目立った。 個別対応(面接練習・入試問題指導)は細やかにできているが、全体としての受験対策、進学率を伸ばす対策は弱いように感じる。 進路ガイダンスの充実度は高いと思う。 スコラ(能率手帳)の利用方法を工夫し、職員への啓蒙、全クラスでの利用など考えていきたい。 来年度からスタートする特別進学コースを進学の中核にするためにも早めに準備を進めたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度までの実績を分析、評価し、令和2年度からの特別進学コース等の取り組みに生かすことが重要である。 推薦、AO入試の生徒への面接指導に、さらなる工夫、充実をお願いしたい。 目標を明確にし、オープンキャンパス、受験校調べなど、早くからの取り組みが大切だと感じている。 共通テストの調査、研究も必要になると思う。 進学先決定後の時間をいかに充実させるか、永遠の課題だと思いますが、何か良い方法を考える必要があると思う。 「もっと上へ」「あなたなら出来る」と励まして、生徒を伸ばしてほしい。先生方の情熱を伝えてください。 特別進学コースの充実が、生徒獲得の武器になると思われるので、頑張してほしい。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 「your steps」に従い美しい所作を指導する。(椅子の掛け方、歩き方、ドアの開け方お茶の入れ方など) 会食指導は礼法にかなった食事作法を実践する。 会釈・挨拶の励行をし、場に応じた挨拶の指導をする。 「授業をする上での留意すべき事項」に従い、礼法指導に即した授業実践をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「your steps」は、HR活動などで活用する機会がとれなかった。年間計画に入れていくようにしたい。 会食指導は、忘れ物をしない、正しい食事作法を実践する、できない場合は追会食など粘り強く指導できた。上品に会話を楽しむという考え方も、指導の中に必要ではないか。 他校と比べれば、きちんとした礼法が身に付いている生徒が多いが、挨拶ができない生徒も増えているように感じる。 入学当初には実践できなかったマナーが、3年生になると当たり前のように行えるようになるように思う。 職員の意識の差が一番出やすい指導だと思う。できる限り意識の統一を図りたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今の時代だからこそ、礼法教育は大切にされるべきだと思う。 建学の精神・教育目標を、年1回くらいは生徒全員に分かりやすく説明してみてもどうでしょうか。 礼法に関しては、全般に以前より評価が低下してきていることが懸念される。 礼法を指導していただけることは、とても良いことだと感じている。 グローバルが進むほど、自国の文化や所作、作法などを知っていることは必要になると思う。 「しつけの順心」「礼法の順心」は、進学・就職においても強みであるので、礼法教育の取り組みは重要。職員の温度差がないようにしていくことが重要。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「情報収集→まとめ→分析→報告」を繰り返し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 一報を通して迅速な情報共有に努める。 週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢を指導する。 校風向上週間、マナーアップキャンペーンで清楚な身なりを指導する。 清掃活動を通して環境美化に努め、施設を丁寧に使用することを指導する。 教室内の整理整頓を通して私物の管理を正しく行い、清潔な生活感覚を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一報を通して情報の共有ができています。その後の指導、結果、生徒がどう変わったのかまで知りたいと思う。 清掃指導については、教員側の研修が必要だと思う。その上で生徒の指導に当たりたい。きちんと清掃ができる生徒が少なくなったとの指摘が多く見られるが、それとは別に教員側の問題もあるように思う。 教室の環境が生徒に影響を与えることは、少なからずあるように思う。整理整頓、カーテンの始末など心掛けたい。 週番活動、校風向上習慣、マナーアップキャンペーンの意義を再認識しより効果的に実践されるように工夫をしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> P D C Aサイクルの実践・継続・強化に期待する。 場所に応じた清掃の仕方を、マニュアル等でもう一度見直し、職員全員が共通な認識で指導することをお願いしたい。 学校施設を大切に使用する、それが公共施設を大切に使用する人になることにつながると思う。 他の学校に比べて、学校がきれいに清掃されていると思います。
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信を、学年主任・担任と保護者とのコミュニケーションの一つと捉え、学年・学級の状況を伝える。 〔月1回発行〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、各学年とも、多少の違いはあるが月1回または隔月というペースで学年通信・学級通信とも発行できた。 保護者とのコミュニケーションという意味で、継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時期に発行されていたと思う。 先生方の負担になってしまうと思いますが、学校の様子を知ることができるので、楽しみにしています。
	オープン キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスは年2回実施し、担任とのコミュニケーションを図る機会とするなど学校理解の促進に努める。 〔参加率70%達成をめざす〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 参加率45% (5月11日～16日・11月6日～12日 2回実施) 時期、日数、内容、意義など実施方法を考え直す時期に来ているのではないか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスのあり方を、教員・生徒・保護者で検討する必要がある。 開催の時期を工夫してみたらどうか。 一人で行きにくいという声をよく聞きます。 保護者間のコミュニケーションもとれればと思うので、人数が集まる工夫が欲しい。
	ホーム ページの 活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信のタイムリー性と実用性の向上 学年・分掌・教科内での原稿作成者決定(行事、検定等) 各行事の更新担当を明記 部活動記録の月毎の更新 	A	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーに記事が更新されていて、利用者も増えているように思う。 非常に見やすいホームページだと思う。 学校見学会、実習体験の告知など募集活動にも大いに役立っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> とても見やすくできている。 小学生、中学生にも見やすいような工夫はできないか。 充実していると思う。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の健康観察、定期健康診断の実施 ・校内の救急体制を整備し、家庭との連携を密にする。 ・生徒の成長や実態に即した健康教育を実施する。 ・健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じ、スクールカウンセラーとの連絡を密にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠席の状況があまり良くなかったため、心の健康も含め、丁寧に観察し担任との連携を深めていきたい。 ・担任・養護教諭・スクールカウンセラーの連携がスムーズに行われている。今年度はクラスに配慮すべき生徒が多く、養護教諭との連携の必要性を実感した。 ・保健便りの発行や各感染症への対応が早く助かっている。 ・小学校・中学校からの申し送りが大切になってきていると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症については、これからも早めの対応をお願いしたい。 ・保健便りの発行、内容がタイムリーで助かっている。 ・子供の不調時の対応が的確、迅速で感謝しています。
⑥安全管理	避難訓練の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・危機意識を高めるための訓練を実施する。 ・南海トラフ地震について知る。 ・集団下校訓練を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の地震防災と11月の火災防災の年2回実施。 ・6月の集団下校訓練は課題を残したが、全般的によく行われていた。 ・通常の授業中（担任外、非常勤の先生方も含む）での訓練も必要ではないか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定しての訓練が必要かと思う。 ・危機意識を持つことを常に考えて、備えていかなければと思う。家庭でも、災害時の行動を考えておきたい。
	職員防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係の職員研修会を実施（7月） ・初期消火訓練、救急対策講習会などの実践的訓練を通し、職員の意識向上を図る。 ・職員の役割分担の周知、徹底をはかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の研修は「南海トラフ地震」の講話を行った。 ・初期消火訓練、救急対策講習会は時間の関係で実施できなかった。 ・職員の役割分担、校内の機器の位置、使い方等年1回は確認しておく必要があると思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時に迅速な行動ができるよう、役割分担の確認は重要。今後の訓練の中での意識向上に期待する。 ・校内の機器の位置、使い方の確認は重要。徹底お願いします。 ・地震、火災に加え、感染症への対応も必要になってきている。学校の役割に期待するところも多くなってきているように感じている。よろしくをお願いします。